

授業改善推進プラン(指導方法の課題分析と具体的な改善計画)

(様式3)

国語	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な「聞く」姿勢が身に付いていない児童が多く、話の内容を理解することが苦手である。 「話す」意欲はあるが、語尾まできちんと話すことができなかつたり、話形が身に付いていなかつたりする児童もいる。 文字や文章を「書く」時間に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の中の大事なことを意識しながら話したり、聞いたりさせる。 話型に気をつけさせて自分の考えや気持ちを発表する場を多く設定する。 授業の中で、視写や考えを記述する場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読カードの活用により、聞く・話す姿勢や態度を振り返る。 朝の会や学習の時間などを使って定期的に話したり、質問したりする場面を設定する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 語尾まできちんと話すことを苦手とする児童と話型を意識している児童との差が大きい。 大事なことを落とさずに聞く力は全体的に不十分である。 漢字学習ノートの作業は丁寧に取り組むが、定着や活用は不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な話型を提示し、発表の中で意識して使用させる。 話の聞き方の態度を示す。聞いた内容に対して質問したり、発表したりする時間を設ける。 漢字小テストを計画的に行うことや、作文指導等で漢字の使用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝や帰りの会等、発表の場や聞き取りの場を工夫して設定する。 小グループの中で、互いに意見交換する場を多く設定する。 朝読書では、物語文などの長文を読む機会を多く設ける。 漢字を使った言葉や短文作りをし、漢字に慣れさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」では、相手に伝わる声の大きさを意識すること、話の中心に気をつけて聞くことが課題である。 「書くこと」では、何をかけばよいかがまとめられなかつたり、書くこと自体に苦手意識が強い児童が多い。 「読むこと」では、音読や物語の読み取りで個人差が大きい。 漢字の学習は、練習を積み重ね、確実に定着させることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く態度が養えるように学習課題をはっきりさせた指導をする。メモの活用をして、発表時に分かりやすく話せるよう指導する。 文章の組み立てを提示して、それに沿って書いていけるよう指導をする。 文章を読んで考えたことを発表し合い、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取れるように指導する。 辞書を活用して、わからない言葉や漢字を調べていくように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のスピーチなど、発表の場を工夫して、自信を持って話せるようにする。聞き取りカードを使い、聞く時の態度を意識させる。 自分が体験したことを振り返って書く機会を多く設ける。 音読カードを使い、声に出して読む練習を積み重ねていく。朝読書などで本を読む機会を多く設ける。 漢字小テストを行い、繰り返し練習する習慣をつける。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」に興味を持って取り組む児童が多いが、正しく聞きとったり、相手に伝わるように順序立てて話したりする力は不十分である。 自分の考えを文章に表わすことが苦手な児童が多い。 漢字の学習は、正しく丁寧に組みませ、確実に定着させることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く時にメモを取って聞く習慣をつけさせるとともに、スピーチメモなどを作って話せるようにする。 短作文や日記など、自分の思いを素直に表現する場を設ける。 新出漢字は、ポイントを押さえて学習させ、小テストを定期的に行い定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習や調べ学習では、伝えたいことをはっきりさせ、分かりやすく発表させる。聞く側はメモを取り、分かったことやよかったことを話し合う。 詩や短歌を視写したり暗唱することによって、様々な表現方法に触れさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」では、意識して聞かせないと内容が理解できない児童と聞き取れる児童の差がみられる。また、簡単な発表はできるが要点をまとめて発表することは不十分である。 自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。 漢字練習をしても、なかなか定着しない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くポイントを伝えてから聞く習慣をつけさせたり、自分の考えを発表しやすいように、小グループでの話し合いの場をつくったりする。 書く学習のねらいをしぼり、めあてにあった短作文を書く機会を設ける。 繰り返し漢字練習をさせたり、文章で漢字を練習させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を進んで使い漢字を使うことを意識させる。 ディベートなど論理的に話し合う、聞き合う教材に取り組む。 お互いの作文を読み合い、付箋などを活用して、よいところを見つけあったりして、自分の文章に生かせる機会を作る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」に興味を持って取り組む児童が多いが、意識して聞かせないと、しっかりと聞けない児童が多い。 事実を話すことはできるが、自分の考えが相手に伝わるように話すことは不十分である。 自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くポイントを伝えてから、聞く習慣をつけさせたり、自分の考えをメモにして発表させたりする。 お互いの作文を読み合い、校正したり、よいところを見つけあったりして、自分の文章に生かせる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を進んで使い漢字を使うことを意識させる。 ディベートなど論理的に話し合う、聞き合う教材に取り組む。 新聞記事をもとに、事実を要点化して書いたり、事実に対する自分の考えを書く場を設ける。また、それを発表につなげていく。